

国土交通省直轄事業の建設生産システムにおける発注者責任に関する懇談会 企業評価専門部会（第3回）

議事概要

1. 日 時：平成19年3月16日（金）13:00～14:50
2. 場 所：都市センターホテル 6F 601 会議室
3. 出席者：高野伸栄部会長、大森文彦委員、小澤一雅委員、木戸健介委員、
佐藤典子委員、高崎英邦委員、根本敏則委員、
笹森秀樹建設技術調整官（前川秀和委員代理）、
福島直樹入札制度企画指導室長（吉田光市委員代理）
欠席者：渡邊法美委員、森下憲樹委員、澤木英二委員、松本直也委員

4. 議事概要

〔総合点数のあり方について〕

- 平成21・22年度以降の競争参加資格審査のあり方について継続して議論していくが、企業の目標となることから早い段階でメッセージとして示す必要がある。
- 企業評価において工事成績をより重視することになれば企業も真剣になる。また、工事成績の付け方についても検討する必要がある。
- 企業の技術力を評価する要素として、工事成績の他にも技術開発への取り組みや資格保有等がある。技術力には量的な技術力と質的な技術力があるのではないか。企業の技術力としてあるべき姿を示していく必要がある。
- 総合点数を経営事項評価点数と技術評価点数の和とすることに疑問がある。
- 部局係数が地域への貢献を評価するためのものであれば、競争参加資格審査ではなく工事ごとの審査や評価の段階で考慮した方がいいのではないか。また、小規模な工事は単純な工事が多いため、大規模な工事の方がむしろ地域性が重要になるのではないか。
- 一般的に優良と思われている企業はどのような算定式を用いても技術評価点数が高くなるはずであり、算定式の変更によりドラスティックに変わることはないのではないか。工事成績の基準点（65点）を変えることで優良な企業の技術評価点数が下がるようであれば、工事成績の付け方に誤りがある。例えば、工事成績から事故等による減点分を外して扱うことも考えられる。
- 大規模な工事ほど工期が長く事故等の発生する確率が高くなるようであれば、工期に応じた発生率により減点することも考えられる。
- 評価する人により工事成績がばらつかないように工夫する必要がある。工事成績を技術評価点数の算定式に入れることには賛成であるが、発注者が工事成績を武器として使う副作用があることも考えておく必要がある。

- 次回の専門部会において工事成績の評価項目や評価方法を具体的に示してほしい。
- 現在、経営事項評価点数の見直しを行っているので、その結果を踏まえて検討する必要がある。

[調達各段階で選定すべき評価指標のあり方について]

- まず、各段階の審査・評価の目的を明確にすることが必要である。その上でそれぞれに適した評価指標を整理する必要がある。

[入札ボンド制度の活用のあり方について]

- 入札ボンドは保証会社等による間接的な評価を期待するものであり、発注者が行う直接的な評価とは別のものとして考える必要がある。入札ボンドは試行を始めたばかりであるので、当面は状況を観察する必要があるのではないかと。
- 保証会社等からの保険金を全く受け取らないと保険料を支払っている意味がない。財務能力の多少劣る企業を参加させることで競争を促進し、工事金額を安くする一方で、適正な頻度で発生するリスクを保証会社等に保証してもらおうという考え方もあるのではないかと。また、保証会社の審査、保険料の設定の結果として、財務能力の劣る企業の排除も期待できるのではないかと。
- 保証会社等では経営事項評価点数等を信用せずに独自に審査をしてボンドを発行していると聞く。

[今後の予定について]

- 本日の議論を踏まえて部会長と事務局で調整し、とりまとめ（案）を修正する。

以 上